

東京大学大学院人文社会系研究科

次世代人文社会学育成プログラムによる海外派遣

帰国報告

最終報告提出日：2013年2月10日

報告者：空 由佳子（西洋史学）

研究テーマ：フランス・ボルドーにおけるエリートと貧民救済(1750年～1830年)

1. 派遣先での活動

(1) 派遣機関

大学名：ボルドー第3大学（フランス・ボルドー）

学部学科：文学部

研究科専攻：歴史学科博士課程

受入教員：Michel Figeac

(2) 派遣期間

期間：H24/8/1～H25/1/20

2. 主な研究成果

(1) 当初の計画の概要

近代フランスにおける政治及び社会の変化について、社会保障制度の歴史を通じて考察することを目的とした研究を行っている。パリから自立した地方都市であるボルドーを対象とした個別研究により、上記のような歴史研究上の一般的目的を達成したいと考えている。歴史分野ではまだ少ないフランス本国での博士論文執筆を実現するため、ミシェル・フィジャック教授の指導の下、第一回目の派遣期間に終了したジロ

ンド県古文書館及びボルドー市古文書館での史料調査の結果を踏まえ、論文執筆を進めることを目的とした。

(2) 実際に達成された成果

今回二回目となる派遣期間に、史料の分析、ボルドー地方に関する研究書や論文の講読、博士論文の執筆といった一連の作業の大部分を終えた。現地に滞在することにより、執筆の折に不足した情報を効率的に収集することができた。

フランスにおける社会保障制度の研究は他国に比べてあまり進んでおらず、基本的に制度史の枠組みに止まっている。それゆえ、本博士論文では、共同体で権力を保持するエリートが貧者への慈善活動の行う上での心性と動機という視点から旧体制の社会関係を分析し、革命、帝政、復古王政を通じた変化を通じて、フランスの歴史的展開を描写することを目的とした。本研究の独自性は、社会史及び長期的歴史の視角を取り入れ、共同体における個人の関係の変化からフランスの政治体制及び社会制度の特徴を説明していることにある。

(3) 今後の研究展望

引き続きフランスに滞在し、博士論文の執筆及び校正を終了し、本年度中に論文審査を終える予定である。その後は、フランスでの著作出版を進めると同時に、フランスと日本両国での研究報告及び論文化を実現していきたい。